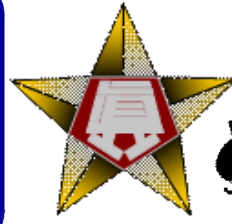


真龍小便り



真龍小学校の子ども

元気な顔
元気な心
元気な体



子供の考えと言葉と

平成28年12月22日発行 No.11

校長 渡辺 仁平

1月のこよみ

日	曜	行事
1	日	年始の休日
2	月	年始の休日
3	火	年始の休日
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	成人の日
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	後期第二ステージ開始 2年スケート学習 朝会(講話) 冬休み図書返却週間(~20日)
18	水	冬休み作品展(~25日まで) 街頭指導 1年、3年、4年スケート学習
19	木	ALT(5年) 6年スケート学習
20	金	特別日課 委員会① 3年、5年スケート学習
21	土	
22	日	
23	月	ALT(6年) 2年、4年スケート学習 生活リズムチェックシート(~29日まで)
24	火	読み聞かせ 5年スケート学習 ALT(3年) 運動の日(雪遊び)
25	水	1年、2年スケート学習 6年租税教室
26	木	ALT(5年)
27	金	5年、6年スケート学習
28	土	
29	日	
30	月	朝会(作品発表 雪組) ALT(6年) 2年、4年スケート学習 生活リズムチェックシート提出日 真龍おはなし隊図書ボランティア14:00~
31	火	ALT(2年) 6年スケート学習 真龍おはなし隊図書ボランティア14:00~

最近のテレビの放映を観ていると、若者や若者を気取っている芸能人から聞かれる「やばい」という言葉とその状況が理解できないことがあります。自分がそうした言葉を使うとき、あるいは頭で思いついたあとに続く言葉は「逃げろ！」です。

やばいとは「危ない」「悪事がみつきりそう」「身の危険が迫っている」など不都合な状況を意味する言葉として、江戸時代から使われた言葉とされています。その後、戦後のヤミ市などで一般にも広がり、同様の意味で使われてきたそうです。これが1980年代になると若者の間で「怪しい」「格好悪い」といった意味でも使われるようになりましたが、否定的な意味でしか使用されていませんでした。しかし、これが1990年代に入ると「凄い」「魅力的」といった肯定的な意味でも使われるようになったということです。

私の中では「やばい商売」「連絡だけでもしておかないとやばいぞ」など、否定的な状況だけに使う言葉ですので、「この料理やばい(やべー)」とレポーターが表現している場面を観ると「食べると危険である」「食べると想定外のことが起きる」と受け取ってしまいます。

その人なりの状況や感情を表現していると思いますが、話し手の「やばい」が否定的に使われているのか、肯定的に使われているのか、聞き手としてはその状況を判断しなければなりません。つまり、「やばい」を否定的にしか使っていない聞き手にとっては、大変に「疲れる」表現です。

日本語には、肯定的にも否定的にも使われる「とても」という言葉があります。料理が「とてもおいしい」「とてもまずい」など、すぐに肯定的なのか否定的なのか聞き手としてはすぐに理解できます。

言葉による状況や感情など表現は、個々において違いがあります。年代によっては、もっと大きく異なるのかなと思います。その人なりに自分の体験や経験、これまでのコミュニケーションに基づく「やばい」の状況や使い方などがあるのでしょう。

言語発達で有名な研究者によれば、生まれたばかりの子供は、頭の中で何か考えてから話をしているというのではなく、他者とコミュニケーションをとることによって、言語が獲得され、次第にそれが頭の中でも使えるようになるという主張をしています。まだ、言葉を発しない乳飲み子に対する母親の語りかけが、子供の言語の獲得に重要であるということです。

また、人がある状況に置かれた時に感じたことや感情の高まりの度合いまでも言葉に置き換えられて記憶され、活用されています。人が考えているとき、考えを巡らせているとき、実際に口から音として発していても、言葉を媒介にしています。外国語の堪能な人は別にして、ほとんどの保護者の方は日本語で考えているはずです。人のものの見方、考え方、感じ方は、言葉によって整理され、記憶され、知識となっているということです。

「考える」ということと「言葉」の関係を授業における子供の活動に置き換えてみると、子供は、問題や課題、事実や現象などを自分の言葉につなげながらその状況を整理しています。さらに言葉を媒体にして他の人の考えやその状況を理解することもできます。例えば、「この計算は、ここが十の位だからこうして、繰り上がって」というように、子供は計算の仕方についても言葉に置き換えて身に付けていきます。「この場合は、こうするのです。」と計算のテクニックだけを大人が教えても、意味がなかなか理解できないのは、自分の言葉に置き換えて整理して記憶することが十分にされていないのだと考えています。

子供が発する、あるいは考えている言葉を大切に、一人一人の子供の理解を深めていく教育活動が充実するように新年につなげていきます。

全国学力・学習状況調査～児童質問紙からわかる成長の跡～

今年4月に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査では、国語と算数の調査問題以外に、児童の学習状況を把握するための質問紙調査というものも実施されました。そこで今回、4月からの成長を確かめるために、いくつかの質問項目をもう一度同じ6年生に答えてもらったところ、たくさんの成長の跡が見つかりましたので、お知らせします。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問では、「思う」と答えている割合が、4月から比べて20%以上増加しました。「読書は好きですか」という質問では、4月は50%以上が「好きではない」と回答していましたが、12月は60%近くが「好き」と回答していました。「1日当たりのテレビゲームをする時間」は、「1時間以上している」割合が、4月に比べて約20%減少しました。「1日当たりの家での学習時間」は、「1時間以上学習している」割合が、4月に比べ10%以上増加しました。

これ以外にも、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」や「毎日同じ時刻に寝ている」という項目でも改善傾向がみられました。

このように比較すると、成長している様子が数値でわかるので、普段何となく「成長しているなあ」と感じていることが、よりはっきりとしたのではないのでしょうか。6年生にとって残り3カ月の小学校生活で、さらに成長し続けるために、励みになる資料になるとうれしいです。

子どもたちのネット(スマホ、ゲーム等を含む)の適切な環境づくりへ向け親の輪を大切に！

中谷通恵さんからご家庭のみなさんへのメッセージ

11月に行われた釧路管内PTA連合大会において、「NPO子どもとメディア」公認インストラクターの中谷通恵さんが、講演してくれた内容の抜粋です。参加していただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

- 過度な電子メディアへの接触を避ける環境づくり(親の輪)を大切にしましょう。
 - ・親御さん同士「みんなで夜の終了時間、決めているもん」と言えるようになると良いですね。
 - ・具体的には、小学生20時、中学生21時、高校生22時を目安にしてはいかがでしょうか。
- 電子メディアの遊びは「おやつ」と考え、子どもの成長の主食となるリアル(現実)社会での遊びがたっぷりとできるように配慮しましょう。
 - ・親子での楽しい会話、体を動かす遊び、様々な社会体験など
- 勉強中はネットにつながるものは、そばに置かせないようにしましょう。
 - ・メールの着信音などが鳴ることで、学習への集中力が切れます。



真龍おはなし隊からの12月のおすすめ本紹介

- ◇『ザガズー』
- クエンティン・ブレイク(作)
- 谷川俊太郎(訳)
- 好学社(発行)

『毎日楽しく暮らしていたジョージとベラのところにあるひ、郵便屋さんから小包が届きます。中を開けると、ちっちゃくてかわいい、いきものが入っていました。ジョージとベラは、その素敵な贈り物と、幸せな日々を過ごしますが……』

このお便りを読んでいるお父さん、お母さんも、日々、わが子と向き合う中で成長を感じて喜んだり、時には、どうしても分かってもらいたくてきつく叱った後に、なんだか悲しみが込み上げてきたり……

そんな子育ての悩みは、みなさん本当に尽きないのではないかと思います。今回ぜひ紹介したい絵本が「ザガズー」です。

自分が生まれて過ごしてきた人生を振り返ったり、これから我が子が歩んでいく人生を想像したりと、「大人」が自分を見つめたい時に、そっと心に寄り添ってくれるような、そんな素敵な絵本です。

子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

いじめや不登校、体罰などの学校教育に関する悩み、子育て・しつけなど家庭教育に関する悩みなど相談してください。

- 電話相談
0120-3882-56
(無料、毎日24時間対応)

- メール相談
doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp
急ぎの場合は電話相談をご利用ください。

- 来所相談 ※10:00~16:00
(土日・祝日、年末年始はお休みです。)

子ども相談支援センター

札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階

※上記の電話相談で予約してください